

出題分析		
試験時間 60 分	配点 80 点 (Reading 込)	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>大問の構成は、例年同様の自由英作文問題 2 題、日本語要約問題 1 題の計 3 題である。解答欄にも変更はない。試験時間は 60 分あるものの、一問あたりの解答時間は限られており決して易しくはない。試験時間内に完答するには、素早く論点をおさえ、それを解答欄におさまる分量に調整してまとめる必要がある。語数指定はないが、解答スペースにおさまるように分かりやすく簡潔に書くことを心がけたい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	自由英作文問題 (大学教育の目的)	短い英文を読み、その内容についての自分の見解とその理由を英語で述べる問題。解答欄は幅 15 センチ×10 行。「大学教育の目的は、心と精神を解放することか、あるいは現代経済における労働者としての役割に備えさせることか」という、どちらの立場からも答えやすいテーマであった。	標準
II	自由英作文問題 (グラフの説明)	高所得国 15 カ国と低所得国 15 カ国における家計の教育支出の割合を示した 2 つのグラフを見て、そこから分かる傾向を説明する問題。解答欄は幅 15 センチ×12 行。グラフが表している傾向は読み取りやすい。グラフの軸と各国の値が何を表しているかを正確に理解できたかどうかで明暗が分かれるだろう。	やや難
III	日本語要約問題 (食品由来の病気が健康と経済に与える影響)	300～400 語程度の英文を読み、その内容を日本語で要約する問題。解答欄は 15 センチ×8 行。文章全体の構成はつかみやすいが、英文の情報量が多く、必要な情報とそうでない情報の見極めが困難で、制限時間内に解答欄におさまる分量にまとめるのは決して易しくはない。	標準

合格のための学習法

本学部の問題は、英語の読み書きのスキルを測る問題形式だが、英語の力だけでなく日本語の記述力や表現力も求められている。日本語要約問題は情報を取捨選択して簡潔に答える必要がある。過去問演習を行い、添削してもらって適切な日本語でまとめられているか必ず確認しておこう。日頃から英字新聞などを読み、社会的なテーマに関しては自分なりの考えを持っておくことが大切である。